

戦争と国家、そしてナショナリズム

福田 宏 hfukuda@juris.hokudai.ac.jp

<http://hfukuda.cool.ne.jp/hokudai04a/>

(法学部 321 号室・706-3784)

(相談時間：7/1(木) 13 時～15 時)

I. 第 2 回レポート締切は、6 月 25 日(金) —— 7/2(金)の提出も可

指定文献 —— イグナティエフ『軽い帝国』 2000 字

II. 最終レポート締切は、7 月 27 日(火) 17 時 (事務室前レポート・ボックス)

III. 自由討論 —— 「論壇」を題材として

- ・ 山内昌之「イラク復興のシナリオと日本の選択 —— 『大中东』構想と自衛隊の役割」『中央公論』 2004 年 7 月号, pp.92-103.
- ・ 篠田英朗「人質事件で露呈した日本の国際平和協力の限界」『論壇』 2004 年 6 月号, pp.36-47.
- ・ 中西輝政「国際テロ組織と『次なる試練の時』」『諸君！』 2004 年 6 月号, pp.36-49.

IV. 予告

- ・ 7/2 講義 (ユーゴ紛争の続きとパレスチナ問題について)
- ・ 7/9 「人道的介入」と「正戦」

テキスト：最上敏樹『人道的介入 —— 正義の武力行使はあるか』

岩波新書(新赤 752), 2001 年. 6 月下旬入荷予定.

- ・ 7/16 講義 (ナショナリズムの功罪 —— 日本の事例を交えながら)
- ・ 7/23 最終回 (未定)
- ・ 7/30 レポートについての面談 (希望者のみ)

V. ユーゴ紛争に関する参考文献

1. 坂口尚『石の花』講談社漫画文庫, 全 5 巻, 1996.
2. 千田善『ユーゴ紛争 —— 他民族・モザイク国家の悲劇』講談社学術新書(1168), 1993.
3. 大津留厚『ハブスブルクの実験 —— 多文化共存を目指して』中公新書(1223), 1995.
4. 柴宜弘『ユーゴスラヴィア現代史』岩波新書(新赤 445), 1996.
5. 高木徹『ドキュメント戦争広告代理店 —— 情報操作とボスニア紛争』講談社, 2002.
6. 千田善『ユーゴ紛争はなぜ長期化したか —— 悲劇を大きくさせた欧米諸国の責任』勁草書房, 1999.
7. 千田善『なぜ戦争は終わらないか —— ユーゴ問題で民族・紛争・国際政治を考える』みすず書房, 2002.
8. ミーシャ・グレニー著, 井上健, 大坪孝子訳, 千田善解説『ユーゴスラヴィアの崩壊』白水社, 1994.
9. マイケル・イグナティエフ著, 金田耕一, 添谷育志, 高橋和, 中山俊宏訳『ヴァーチャル・ウォー —— 戦争とヒューマニズムの間』風行社, 2003.